

座談会

平成3年10月17日於表参道「動物園倶楽部」出席者下記の通り。

小杉 良雄 (昭和36年卒)
瀬戸 政二 (昭和36年卒)
山中 武一 (昭和36年卒)
重富信一郎 (昭和36年卒)
水谷 (中村) 重子 (昭和36年卒)
長堀 (隅田) 恭子 (昭和36年卒)
臼井 宣幸 (昭和37年卒)
渡辺 輝久 (昭和38年卒)
井上洋之介 (昭和39年卒)



小杉 1961年度卒中心になってしまいました
が酒が入って友好談話になる前に表題につき
1人1人順番に思い出を語ってもらいたいと
思います。まず左回りで瀬戸君から順にどう
ぞ。

瀬戸 塾バドミントン最後の全盛時代に部員
として居合せたということが1番幸せだった
と思っている。当時全日本学連の仕事にたず
さわっていたけれどインカレ8年ぶりの優勝
に立ち会えたことは大変な感激で今でも目に
浮かぶ。

山中 3・4年になってからもつばら関東学連
の仕事にたずさわってきた。OB等の気持と
して塾のため有利な組合せをという期待も一
部にはあったが、他校にどうこう云われぬ様
あえて公平な組合せに始終した。特に優勝し
たインカレでは戦前、塾に不利な組合せと云
われたが、それををはね返して堂々と当時の2
強、立教・法政を連覇したもので最高の気分
だった。

小杉 次に塾高で柔道をやって大学でバドミ
ントンに変わったフレイントが上手だった重
富君お願いします。

重富 我々の在部4年間は越川さんをはじめ
全国的に有名な選手がいたし、とにかく全面的
に強かった。トレーニング、合宿にしても
全員が一途で雑念が入り込む余地がなかった
ように思う。そしてその素質と練習が開花し
たのがインカレ優勝ではなかったのかと思っ
ている。そう云えば1・2年のときは天現寺体
育館の内外とか、3・4年のときには日吉まむ
し谷の上り下りと、綱島・多摩川へのミニマ
ラソンとかよく走らされたなあ。

山中 あの時は走るのが好きな先輩が多かつ
たんだよ。

渡辺 今現役に我々の頃は何かあると坊主頭
になったと云うと「信じられない」と云う。
やはり体育会気質が変わったように思う。今は
我々みたいにジツチャキキになってバドミント
ンに打込むと云う世の中ではなくなってきた

いる。特に我々の時は“恐慌の十円玉”と云うのがあり練習時間に遅れたり弛んでいると十円玉を渡され東横線「新丸子駅」のハサミの入らない入場券を買わされに行かされた。それに昔は今よりよっぽど先輩が恐かったと思う。今は塾の中にバドミントンの同好会がA・B・Cクラスといくつもあり、これがある意味で時代を反映しているし又体育会にとってはあまり良くないと思う。

臼井 塾の100年祭の時日吉に体育館が出来非常に便利にはなったが一方日光が目に入ったり天井が高いためか風にシャトルが舞ったりしてやり難い面が目立った。自分としては通うのは大変だったけど条件としては天現寺の幼稚園体育館の方が練習には良かった様に思う。ただ2面しかコートがなかったのでコートに入るチャンスがなかなか回ってこず待ちどおしかつた。コートに入れず星空の下をただぐるぐる何回も何回もまわっていたことが記憶に残っている。

井上 インカレ優勝の時は自分は現場に居なかったけど、前々から一種独特のムードがあったと思う。来年卒業するレギュラーの居ない4年生のため3年生として思い切ってやろうという気があった様に感じている。又インカレの話になってしまいうけどNo.1になったチームに居合わせたことは大変ラッキーであり、社会人になってからも何かと心の支えとなった。翌年には同じJメンバード同じく決勝までいったが法政を敗って出てきた立教に惜しくも3—2で敗れた。団結の力とムードの有り方が勝つ上には必要なんだということが印象的だった。

小杉 女性軍の若き時代の感想はどうですか。

隅田 私には1年生の時の松本の浅間温泉の

合宿が1番思い出がある。又故高橋(上杉)、佐藤(片石)、藤井(今井)、藤林(牧)さんと4人4様の素敵な大先輩がいてすばらしかった。とにかく“先輩”という気がした。私か部をやめそうな雰囲気があった成果“ケロ(仇名)をやめさせるな”との先輩の話で中(水谷)さんが引き止め役になり結局4年間一緒に夢中にやりとげてしまった。それに私の時はチームはアウトラだったけどその後セーフになったとか。チームが多かったのでセーフだったらもう少し勝ってたかとも思います。

小杉 それから女子は当時インカレ準優勝と新人戦優勝があったんじゃないの。

水谷 確か1年生の時インカレで決勝戦までいき京都女子大に最後のシングルで敗れて2位になったんじゃないかな。今思うと惜しくてしようがない。又関東大学新人戦ではからずも単複優勝したけれど、私のシングルの決勝の時スワッシュを決めると応援の人が“ドカーン”“ドカーン”といって時に我にかえった思い出がある(注:大型選手だったので女性にめずらしい強烈なスワッシュが床に叩きつけられた)。

とにかくケロが云ったように先輩らしい先輩がいて引っぱられながらだったけどやりがいがあった。合宿では夏の松本で夜の門限(9:00PM)に遅れた事件が1番思い出に残っている。食事(栄養)が足りなかったのが女子の先輩と一緒に「中華」を食べに行ったのが仇。翌朝全員(高校生も交えた)の間隔を置かない連続式中飛びのペナルティを受けつらかった。

小杉 座談会と云うより思い出報告会みたいになってしまいましたが、最後に自分の感想として、我々の4年間は塾にも強い先輩・後

輩選手が大勢いたけれど、どちらかというときでもあったと思う。それだけに最上級生の時実力ある3年生（故中村、山田、蒔田等）にめぐまれインカレで見事一矢を報いたのが痛快だった。故中村君の対立教小宮戦での鬼気迫るフット振りと勝利の晩の大阪宿舍での胴上げ（私にとっては最初で最後）は今でも忘れられない。現在年々歳入試が難しくなってきたのはいるが2年間に1人位は強い核になる選手が入ってきて塾バドミントン部を引張って行ってくれるパターンになって欲しいと思う。このためOBが更はこの面で特別の支援をする必要があるのではないか。というのは思い出しにひたるのも嬉しいけれど現役が強くなってくれなければ意味が無いから。

一同 ガヤガヤ（以下酒席に）。

座談会 -吉田監督とその1期生との思い出-

平成3年8月9日(土) 於安田火災湯河原荘。出席者下記の通り。

吉田 格麿 (昭和32年卒・1964～1951年監督)

岡本 圭 (昭和32年卒・ゲスト・1953～1959年監督)

香西 維忠 (昭和40年卒)

轟 勝彦 (昭和40年卒)

山中 仁 (昭和40年卒)

李家 弘興 (昭和40年卒)

司会/進行：大嶋 研一 (昭和40年卒)

大嶋 合宿の思い出や、試合の思い出など何でも語ってください。

香西 吉田さんはいつから監督を始められましたかね。

吉田 越川 (1958年卒) が監督になったときにOB対策で助監督に、翌年に越川が転勤になって監督になった。

早慶戦の敗戦

轟 一番のエボックはなんといっても4年生の時 (1965年)の早慶戦の敗戦でしょうね。山中 (12回目にして) 初の敗戦を喫したということだね。

全員 ウーンそうだ。

大嶋 一番の話題は香西のことかな。7ー7で最後のシングルス。全員注目の中での決戦だった。

轟 しょうがないね。最後の試合になってしまったからな。

(この試合のことは香西君の寄稿文に掲載) 李家 大嶋と組んだダブルスも悔いが残った。第1セットを15ー0で勝ったのに負けてしまった。

吉田 香西と渋谷の焼鳥屋で終わった後、のんだよな。ガード下のどぶ川の脇で。

香西 渡辺さん (1963年卒) もいましたよ。なんで渡辺さんかいたのかな。

轟 OB戦があつてきていたんじゃないかな。

吉田 そう、井の頭線で帰り道が一緒だった。香西 あの夜はいくら飲んでも酔わなかった。コッゾ酒で飲んでましたよ。

吉田 店のおばさんに「もうやめたほうがいいんじゃないの」と言われるまで飲んだね。早慶戦は負けただけど、後にリーグ戦、インカレが控えていた。香西に「頭を刈るのと、次の試合に勝つことと、どちらですかね。」と聞かれたが、返事ができなかった。すると、また香西が「明日は月曜日で散髪屋が休みだ」というので、「神奈川へ行けばやってるよ」と言ったのを覚えている。

大嶋 あーそうだ！翌日の練習では香西だけが坊主になってきていた。

香西 あれは結局、学校の中にある床屋で刈ってきた。汚い散髪屋で。

山中 あった、あった、二幸とグリーンハワ

スの間に汚い床屋があった。

大嶋 コーチは鈴木さんだった。香西だけが坊主になったことについて、「連帯責任だ。ほかのみんなはどう考えているのか。」とおこられた。

香西 4年生は坊主になったが、下級生は「坊主になる必要はない」と言ってもめた。覚えていてるかい。下級生が「自分は一生懸命に試合をして負けたんだから反省することはない。坊主になる必要はない。」という意見陳述をしていた。あの頃から部員に、合理性のようなものが芽生えてきたのかな。

轟 学費値上げで学園闘争が始まりもめた頃だね。丁度そんな風潮ができてきたんだね。**李家** 騒動で卒業できないんじゃないかと思った。

インカレ準優勝

香西 早慶戦に負けてからインカレまでの間が、4年間で1番真剣に練習をしたと思う。

吉田 あの頃の練習は確かに充実していた。インカレは決勝で負けて2位になったけれど、実力以上の2位だった。

大嶋 記録によると、決勝は3—0で法政に負け、準決勝では中央に3—1で勝った。準々決勝は明治に3—2とてこずっている。覚えてるかなあ。1回戦は北海道学芸大に3—0で勝っている。

吉田 「慶応4年振りに決勝進出」新聞に出ていた。

プレーでは、山本（1966年卒）のロンダサーブの印象が強く残っている。法政との決勝の第1ダブルス。相手は伊村、中村。ロンダサーブはだめだと思った次の瞬間、たたかれてそのままゲームの展開が悪い方へ流れていってしまった。ずーっと後になって山本に聞

いたら、山本もよく覚えていたよ。

轟 あの瞬間は覚えている。「アッ」と思った。あのロンダサーブは弱気で逃げの心算だったと思う。

吉田 ひとり1人プレーに個性があった。悪い出が付きまない。

左左のダブルスコンビ

大嶋 轟と日本のダブルスは強かったね。

香西 あれは、左左のコンビが一世を風靡したんだよ。

吉田 そう、岡（監督）さんがつくったんだ。**香西** 左左だとフオーメーションが逆になって、相手が狂ってしまうんだよ。

吉田 あの頃、轟のようなクロスの球を打つのはいなかった。

轟 あんな風にはみんなは打たなかった。あのダブルスを開眼したのは怪我の功名なよ。膝に怪我をして足を使えないから、椅子に座って壁打ちばかりやっていた。ブツシエを右や左にフェイントを入れたりして工夫したんだ。さんざんやった。

李家 そうか、それでとんでもないところから球が出てくるようになったのか。

吉田 壁打ちをやるとタッチが早くなるんだよね。

吉田監督汽車に乗り遅れる

大嶋 富山県の高岡まで高校生を勧誘にいった事がありましたね。

吉田 そうそう、僕が汽車に乗るのをコロコロと忘れちゃってね。

大嶋 上野発の夜行寝台の切符を吉田さんに事前に渡して、当日上野駅で吉田さんを待っていた。こっちは、長谷川と2人で。

吉田 長谷川と3人だったなあ。

大嶋 発車の15分前になっても来ない。長谷川と「どうせ吉田さんどこかで酒でも飲んでるんだよ。指定の切符を渡してあるからそのうち来るよ。」なんて言っているうちに汽車が動き出してしまった。仕方がないので、長谷川と2人で高岡まで行って、吉田さんの家へ電話をしたら「酒飲んでて翌日と勘違いしてしまった。これから飛行機で行くから待っていてくれ。」って。

吉田 そんな事があったね。結局、高岡の立野は塾を受けなかった。

監督と焼肉

香西 吉田さんは、それまでの監督と違ってよく練習や試合にきてくれた。そしてご馳走になったことが強く印象に残っている。

吉田 練習や試合のほか、高校生の試合もよく見に行った。インカレのほか関東地区の試合はほとんど見たと思う。

独身だったからできたのだろう。

香西 試験の前になると、「青焼き」(コピーのこと)に吉田さんの会社へいった。あれは赤坂の事務所でしたね。

吉田 その後焼肉を食って行ったんだよ。そういうえば食い物のことはよく覚えてるね。

プレー中の良い写真が残っていない

岡本 バドミントンのプレー中の写真が残っていないんですけど、ありませんか。

轟 集合写真しかないんですよ。プレー中の写真というのはプロの写真じゃないとだめね。アツプで撮れないと。

李家 当時は素人では望遠なんかあまり持っていないかったしね。

岡本 法政なんかにはいい写真が残っているんだよ。

山中 トマス杯なんかに出ていればあるんだろうね。

岡本 最近では2部や3部だから、雑誌などにも乗らないんだよ。

もし当時のなんかいい写真があったら記録に残したいの提供してください。よろしくお願いします。

大嶋 思い出はいろいろ尽きないことと思いますが、明日はゴルフなんでそろそろお聞きにしたいと思います。明日のご健闘をお祈りします。

(翌日は湯河原カンツリークラブで楽しくプレーをしました。)